

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894400056		
法人名	社会福祉法人 さいか		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホーム楓の杜		
所在地	兵庫県豊岡市竹野町林600番地		
自己評価作成日	令和7年2月20日	評価結果市町村受理日	令和7年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 gokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_pref_topiigv

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和7年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の安心・安全・安楽を第一に考えた上で、特色ある施設運営に努めている。春は施設内で大きな桜の木の下で家族・地域の方を招いての花見会・地域で活動されている音楽サークルグループを呼び施設内での音楽祭(春・秋)開催・8月には夏祭りイベントを開催しています。感染症(コロナ・インフル)感染リスクは常にありますが、その時の社会情勢にあわせて開催しています。食事にもこだわりを持ち、地産地消を心掛け、手作りにこだわった食事を提供しています。入居者様が出来る事は安全を担保しつつ、活動して頂いている。面会室も新たに設け、コロナ禍で閉鎖された生活環境に終止符を打ち、家族・親類縁者の方に接しられる時間と空間を提供しています。地域で開催される夏の花火大会にも出向き鑑賞しています。入居者様の趣味事にも協力し提供する事を心掛けています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春は満開の桜、夏は海、秋は紅葉、冬は雪と四季折々の豊かな自然に囲まれた事業所で、利用者には地元産の野菜や魚、果物を使った美味しい食事を摂り、日々健康に配慮して過ごしている。お正月には餅つきや職員手作りの凧あげを楽しみ、広々とした施設の庭での音楽会や夏祭りなどのイベントには、利用者や家族だけでなく、地域住民も招待し、事業所自体が住民が集える地域交流の場となっている。職員手作りのグループホーム通信には、利用者の趣味や、好きなことに取り組んで楽しむ利用者の笑顔が溢れ、職員の温かい日々の支援が伺える。これからも開かれた福祉施設として地域の財産になることを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	原則豊岡市在住の方の利用運営に勤めている。施設入所申込者の豊岡市以外の申込者についても、当施設入所に関する説明も踏まえ柔軟に対応している。	額装で掲示した法人の理念と基本方針は、日々業務に励む職員の目に触れている。パンフレットにも大きく記載し事業所の特色として紹介している。理念を具体化するため、毎年スローガンを作成し、今年は「笑い声を増やし、感謝を忘れない」に決め、職員の意識向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防の観点からその時々々の社会情勢に合わせて対応している。(竹野海上花火大会・林地区盆踊り・南地区文化祭等)	少子化で地域の小学校が統合され近隣に無くなるなど、年々交流の場は減少している。その中で、浜の夏祭りや林地区の盆踊りなど、出来る範囲で、積極的に参加して利用者の地域との交流を行っているが、事業所で開催するイベントに地域住民を招くことで、地域交流の場としての役割を果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症予防の観点か社会情勢を踏まえ出来る事を推進(楓の杜での音楽祭・春のお花見・夏の夏祭り行事等に案内)	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症予防の観点より取り組みが出来ていない。(コロナ・インフルエンザ感染等)2024年7月～9月グループホームコロナ感染(クラスタ発生)	事業所では、昨年夏から秋にかけてもコロナやインフルエンザの発症があり、通常の運営推進会議の開催ができない状態が続いた。今年1月に、市の福祉監査課の指導が入り、運営規定などに訂正箇所の指摘があり、全て改善し、コロナも落ち着いたので、今後開催する予定である。	通常の会議ができない場合であっても、書面で開催できるので、事業所や利用者の様子を議事録として残すように取り組んでください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険継続申請・区分変更申請・事項発生時報告・成年後見人制度講習会等のへの参加・但馬長寿の郷介護技術講習会への参加に取り組んでいる。	介護保険の申請手続きのほか、事業所は、市が開催する様々な研修に職員が参加できるよう調整し、職員の意識向上に努めている。成年後見人制度講習会や、今後介護技術の講習会にも参加を申し込んでいる。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体の委員会に参加し、身体拘束の理解を深め、しない実践に努めた。	身体拘束は事業所としてしていない。夜間のみ移乗時の安心のためにセンサーマットをしている。新規に入居した利用者の夜間の状態を把握する為にも、短期間のみ利用するが、家族への説明、同意は得ており、身体拘束適正化委員会で周知している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体の委員会に参加し、高齢者虐待防止関連法について学び、しない実践に努めた。	身体拘束適正化委員会の中で虐待防止についても検討、日常業務の中での振り返りを行っている。現場職員も丁寧な声掛けで利用者に接している様子が伺えた。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政が主催する講習会等に職員を参加させ、理解を深める取り組みをした。	成年後見制度についてのリーフレットは入手している。市が主催する成年後見制度に関する講習会に職員が参加し、現場職員への啓発に役立たせている。現在、後見制度の利用はいない。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には職員(複数人)で対応して、説明不足・理解不足の解消に努めた。	契約は、事業所と希望があれば自宅でも行う。契約は、管理者と看護師などほか職員とで行い、本人、家族の疑問や質問に答えられるようにしている。重度化の際の対応についての同意書を作成し、契約時に説明、同意を貰っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	対応出来る事案については、柔軟に対応した。	感染症対策で面会時間は15分となっているが、家族の希望で延長することもある。また面会場所は、現在入口に面会場所として木造の部屋が出来上がっているが、今後事業所の床の工事の終了後は、居室での面会が可能になり、家族の要望に応えることができる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	対応出来る事案については、柔軟に対応した。	毎日の申し送りや会議で現場職員からの意見を吸い上げるようにしている。事業所の老朽化した電気機器の買い替えも順次行っている。また利用者のレクリエーションの充実を図る取り組みとして、同じ事業所内の他部署から営繕の仕事をする職員の付き添いできた職員が、様々な脳トレを準備し利用者の楽しみに繋がっている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法廷休日・年間有給休暇消化の取り組み。残業時間の短縮等の取り組みを実践した。		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設開催の各種委員会へ職員参加・介護福祉士試験受験に対する取り組みをした。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現行では出来ていない・2025年度への課題である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接の時点より本人の意向を尊重し、信頼関係を築く取り組みを実践した。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の時点より本人の意向・家族の気持ちを意向を聞き取り、良好な関係が構築できるよう努めた。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方に応じた一番適した支援を考え提供する事に努めた。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	良好な生活が送れる生活環境整備に取り組んだ。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症対策を構築する中で、面会実施の機会を設け可能な限り面会の要望に応えた。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防対策の中で、対応可能な事案に関しては対応。(面会・電話)等	昨年秋のコロナ感染のため、面会の場所等の制限などはあるが、家族や孫の面会を楽しみにしている。外出に関しては制限はない。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味的な事柄については、共同で取り組める環境作り共に励んで頂いた。(折り紙工作等)		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設運営の中で柔軟に対応出来るよう努めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思い・意向の把握に努め、施設として出来る事案については柔軟に対応した。	これまで過ごした家での生活スタイル、その人なりの役割や思いを、利用者の会話や日々の行動から汲み取っている。家族の話題や仕事のこと趣味など、盛り上がることもある。家族からの情報も参考にしている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握する努力はしたが、十二分に把握が出来たとは思わない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、身体を含め職員全体で考察を行い、入居者様の把握に努めた。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に基づき、モニタリングに励んだが十分・満足できた状態ではない。	利用者の日々の過ごし方、カラオケや折り紙などのクラブ活動での交流を通じて、その人らしい過ごし方を計画に盛り込むようにしている。毎月リーダーが職員からの情報を基にモニタリングを行い現状把握に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で実践結果を記録に落とす努力はしたが、十分とは言えない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の社会情勢に鑑み工夫を凝らし実践した。海岸ドライブ等		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この地域も年々限界集落化してきており、活動自体が非常に少なくなり、出来る事を模索した。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域医療に協力し出来る限り主治医による訪問診療に切り替えて頂き、専門性のある病状については公立豊岡病院を受診する体制を行っている。	契約時に説明し納得を得ており、日々の健康管理とともに、利用者の心身低下や重度化に備え、協力医療機関の訪問診療を推奨している。定期受診が必要な場合は、家族と協力して支援している。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師は設置していないが、週2回勤務する看護師と共同し入居者様の支援に努めた。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関には施設ケアマネよりサマリーを提供し、情報の共有を図り、利用者様が適切な医療が受けられる体制をとり、退院時の日程調整も柔軟に対応した。	利用者の状態変化には注意し、連携の医療機関に速やかにつなぐ体制を整備している。利用者の不安軽減に努め、早期退院に向けた事業所での受け入れ体制についてもその都度、職員間で共有を図っている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限り事前に家族・主治医・施設管理者・看護師・施設ケアマネとムンテレを行い協議を重ね、終末期に向けた書類の確認・経過処置の確認等をを行い、承諾を得た。	契約時での説明だけでなく、利用者の状態低下にそい、主治医や家族を交え状況確認を行っている。家族の思いを尊重し、できるだけ不安なく寄り添えるよう、職員は見守りに努め、環境にも配慮している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応・緊急連絡・救急搬送の手順等の教育練習を実施。心肺蘇生に関する講習会にも参加した。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	豊岡市防災課指導要領に基づき指定されている避難施設までの避難訓練を入居者様・職員とで訓練実施した。令和7年1月1日能登半島地震では実際に日本海に面した地域の職員は高台に避難した。	定期的な訓練を利用者共に行い、避難経路の確認を行っている。地域的には、土砂災害等の自然災害に対する危機意識を忘れないように注意している。	運営推進会議再開の折には、地域の状況確認や協力体制について議論を重ねていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に意識を持ち言葉かけに注意し実践した。	馴染の関係者を大事にしつつも、高齢者を敬う気持ちを持って言葉かけを行い、接し方にも注意している。排泄や入浴時には、周りの環境をみながら、その人が察することができる声かけに努めている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の思い・気持ち・希望は日々変化するので、その状況下で自然を尽くす取り組みをした。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り個々の思いで生活して頂く様に支援する事の努めた。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家人様より届いた生活用品・衣類は職員より提供し入居者さまに提供し・写真等も家人様に送付した。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自立度が高い入居者様には食事の用意・片付けをして頂き、調理の補助もお願いした。	敷地内の厨房で調理したものを運んでいるが、ごはんはユニットで炊いている。やりたい人や出来る方には、積極的に調理や配膳、後片付けなどをお願いし、声かけもしている。月に2～3回は手作りおやつを楽しんだり、年末の餅つきも恒例行事となっている。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の今の状態に合わせて、水分摂取・栄養ドリンク・栄養補助食品を交え提供。特に夏場には注意をした。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は歯磨き・うがいを促し支援した。口腔内の専用洗口液も使用した。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員による声かけ、今の状態に合わせた排泄用品の選定を行い、トイレでの排泄に努めた。	自分のペースでトイレに行っている人も多いが、その人の排泄の状況に応じて、職員からも声かけしている。ベッドで過ごすことが多い人は、定期的に排泄確認を行い清潔に努めている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の効用に頼らず、食生活による排便に心掛け、乳製品・食物繊維の豊富な食材を提供した。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望・タイミングで入浴の支援を行い、入浴を楽しんでいただいた。	入浴日の目安はあるが、利用者からの希望で入ってもらったり、職員からタイミングをみて声かけしている。無理強いにならないよう時間をずらしたり、その人にあった声かけに努めている。職員配置にもよるが、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の今の状況に合わせて、休息・安眠支援を提供した。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の入居者様の服薬されている薬の効能を把握して、日々の服薬支援に努めた。薬変更時も説明を行い、家人様にも報告した。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自身で出来る事はして頂き、食事の用意・片付け・お部屋の掃除・衣類の整理整頓もして頂いた。趣味事の支援もした。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状は病院受診での外出・マイナンバーカード作成での外出等に限定されている。今後外出支援に向けた取り組みを行う。	ウッドデッキに出たり、敷地内を散策することはあるが、外出する機会は少ない。家族との受診の際に買物することもある。感染対策に注意をしつつ、外出の機会を徐々に増やしていきたいと考えている。4月の花見を企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では施設入所時に金銭の持ち込みを許可していない。商品の購入をしても施設が立て替え払いで支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人様からの電話・手紙・ハガキの受付支援をしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な生活環境の提供に努めた。築16年を経過し定年劣化した環境もあり、修繕項目に取り上げ計画的に取り組んだ。各居室に陰圧器の設置も完了した。	平面続きのユニットで明るく、開放的な空間である。手作りの桜の花や利用者の写真が掲示され、会話が弾んでいる。現在、廊下やリビング等のフローリングのリフォームにとりかかっており、段階的に環境の改善に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士での空間作り・共用作業場を作り提供した。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室は日々注意をはらい、心地よく生活できる環境を提供した。室内の温度管理・生活用品の管理等。	木造の和風建築でクローゼットが常設されている。整理ダンスや椅子とテーブル、テレビなど、使い慣れた家具等が配置されている。家族の写真、趣味の作品や小物を思い思いに飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体の状態に合わせ、出来る事・出来ない事を見極め、自立した生活が行るように支援した。		

(様式2)

事業所名: 社会福祉法人さいか楓の杜グループホーム

目標達成計画

作成日: 令和7年4月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	2025年1月29日豊岡市福祉監査課の実施指導にて指摘された運営推進会議開催を2か月ごとに1回以上開催できていない。	豊岡市福祉監査課より指摘された運営推進会議の開催により、地域との連帯感を広めていく。	2025年5月に運営推進会議開催を計画。2か月ごとの開催を計画。(5月・7月・9月・11月・1月・3月)	1か月
2	35	災害対策において、豊岡市防災課指導要領に基づき指定された避難施設までの避難訓練を入居者・職員とで訓練実施している。	地域との連帯感を広めていく活動に努めていく。	2025年8月最後の日曜日に通年であれば豊岡市市民の避難訓練が実施される。本年度は地域の区民との方と一緒に、避難訓練の実施を計画する。	3か月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(様式3)

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容	
実施段階		(↓ 該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他()